

第1章 計画の趣旨

1.1 計画の目的

藺牟田池は、国の天然記念物である「泥炭形成植物群落（浮島）」や国内希少野生動物種に指定されている「ベッコウトンボ」等が生息し、重要な湿地として2005年11月に「ラムサール条約の登録湿地」に指定され、2025年に20周年目を迎えます。

近年、気候変動に伴い、幾度の異常降雨や渇水等にも見舞われ、藺牟田池に生息する自然生態系への様々な影響が懸念されるとともに、地域の高齢化に伴う人口減少等が拍車をかけ、環境保全活動の衰退や、継続的な資金調達等も困難な状況下にあります。

これらの課題を解決するため、「グリーンインフラ」の手法を活用して、ラムサール条約の目的である「湿地の保全」と「ワイズユース（賢明な利用）」を持続的に推進し、ラムサール条約登録時点の環境に「再生」することを目的とします。

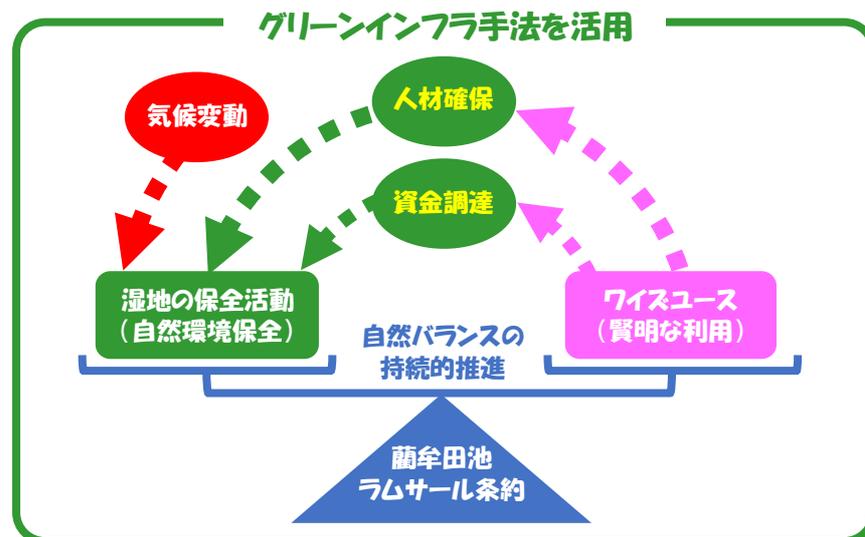


図 1-1 グリーンインフラ手法を活用した自然バランスの持続的推進



写真 1-1 泥炭形成植物群落（浮島）



写真 1-2 ベッコウトンボ

1.2 グリーンインフラ

グリーンインフラ（GI：Green Infrastructure）は、グリーンインフラストラクチャーの略で、自然環境が有する多様な機能を活用し、防災、減災、国土強靱化、新たな生活様式、SDGs に貢献する「持続可能で魅力ある社会の実現」を目指す取組です。また、計画から整備、維持管理に至るまで、公民が連携し、多様な主体が協働で取り組むことにより、「新たなコミュニティの創出」等にも繋がります。

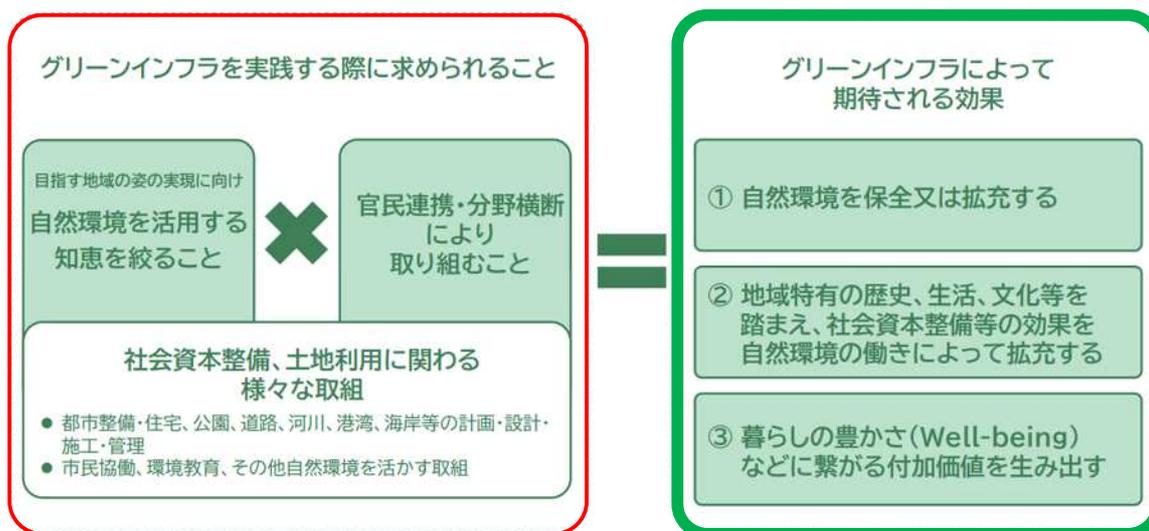


図 1-2 グリーンインフラ実践の基本的な考え方（国土交通省） p I -15 ※1.1)



図 1-3 地域に暮らす人々をつなぐ里山・農の風景 p I -13 ※1.1)

※1.1)「グリーンインフラ 実践ガイド」(令和5年10月 国土交通省総合政策局環境政策課) p I -13、I -15
<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/content/001713035.pdf>

1.3 計画対象区域



図 1-4 薩摩川内市における藺牟田池位置図



図 1-5 藺牟田池周辺の計画対象区域

1.4 計画期間

計画期間は、ラムサール条約登録 20 周年の令和 7 年度から、ラムサール条約登録 30 周年の令和 17 年度までの、概ね 10 年間とします。